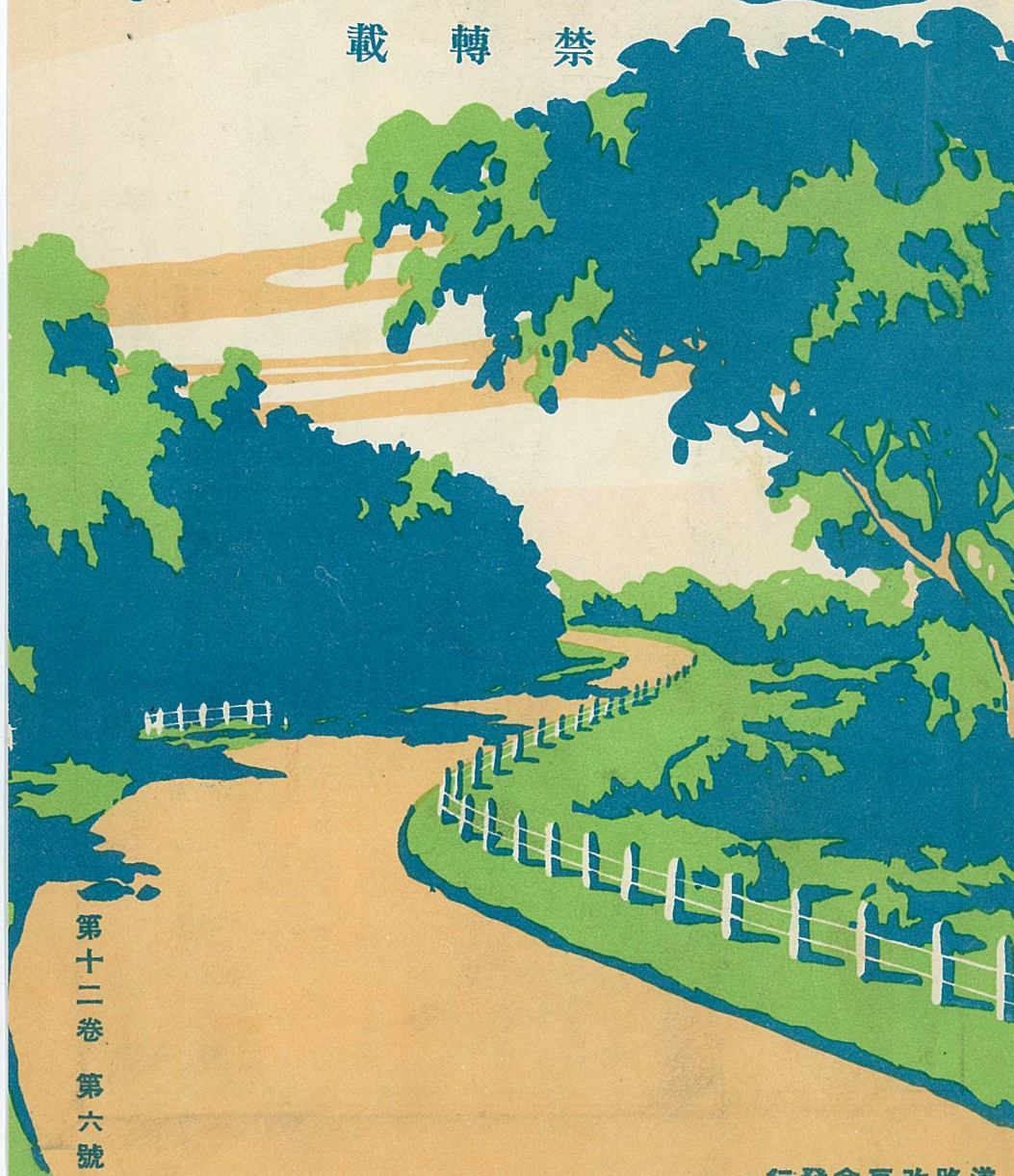


# 良改の路道

載 轉 禁



第十二卷 第六號

混合式道路鋪裝用並ニ電車軌道

絶縁ニ最モ適當ス

# アスカル

注入式道路鋪裝用並ニ防水耐酸

絶縁

# アスカル アキス

アスカル鋪裝豫定價格略表 (面一坪ニ付)

一、道路表面處理工

砂利マカダム道路	一圓五十錢……四圓
コンクリート道路	
アスファルト道路	
現在路面ノ補修	

一、道路鋪裝工

商業地	普通鋪裝	四圓……七圓
興行地	高級鋪裝	八圓……十二圓
工場構内外		
倉庫構内外		

建築物屋内床工

工場及倉庫床工

在來コンクリート床上ニ表面處理	二圓……三圓
在來砂利マカダム表面處理	三圓……五圓
同上路面不完全ノ場合	六圓……八圓
新設ノ場合	八圓……十三圓
學校々庭及テニスコト鋪裝	五圓……十二圓
屋内床塗厚一分	五十錢……八十錢

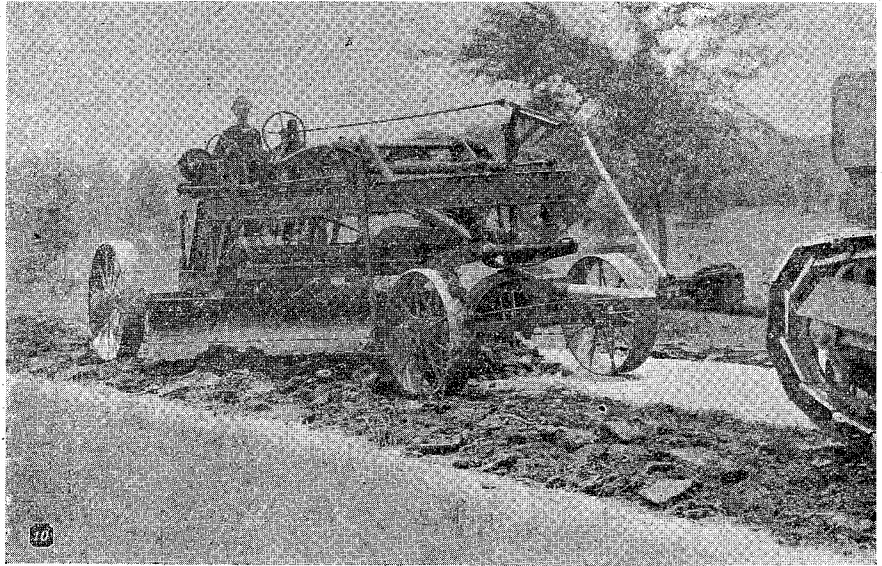
右之外御用命に隨ひ設計見積等御相談に

應じます

東京市下谷區上野櫻木町二二

アドルフ・メタル株式會社

電話下谷〇〇五五



冠絶セルキヤタピラー道路機械ノ威力

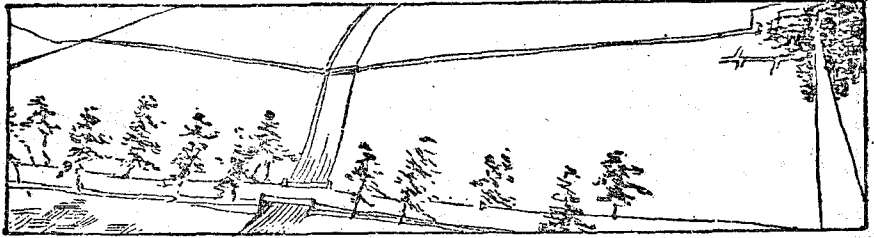
上圖ハキヤタピラー會社ノグレダーノマカダム道路々面切削作業ヲ示スモノデ其最新ノ設計ト偉大ナル能力ハ右端ニ見エルキヤタピラー・トラクターノ夫ト共ニ 斯界ノ賞讚ヲ博シテ居リマス。

キヤタピラー道路機械ハ此他優秀ナルモノノミ數種アリマスカラ御要求アリ次第型録拜呈致シマス。

東洋一手販賣店

三井物産株式會社機械部

本店——東京日本橋本町  
支店——大阪、名古屋、門司、京城、  
大連、小樽、臺北



道路の改良 第十二卷 第六號 目次 昭和五年六月一日發行

口 繪 福岡縣筑後川上流の昭和橋

卷 頭 言……………(二)

時 論

失業救済の爲に道路を改良せよ……………一 記者(三)

研 究

徳川幕府の道路交通政策に就て(一)……………京都帝國大學 和田篤憲(七)

歐米諸國の道路改良(一)……………内務事務官 武井群嗣(二三)

ポルトランド・セメントの規格並に試験法に就ての考察(五)……………内務技師 三木榮三(二五)

海外道路時事

新型三鉸式鐵筋混凝土橋……………内務省土木試驗所長 物部長 穗(四)

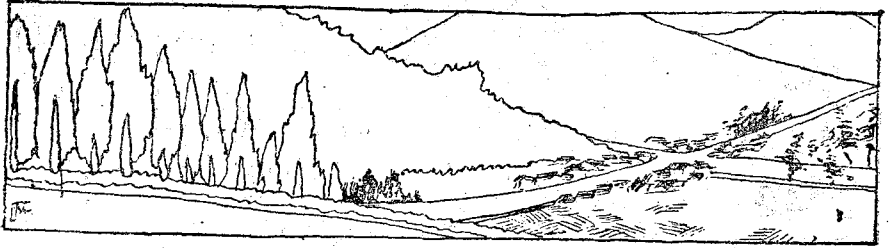
獨逸に於ける道路財政の近況……………英吉利海峽海底隧道……………鐵筋ガラス床版

河岸道の擴幅工事

資 料

都市交通問題(廿一)……………警視廳技師 平山泰治(五)

詩 郊外初夏……………(六)



紹介

萬國工業會議に於ける道路問題(四)……………道路改良會調查部(三)

萬國道路會議に就て……………江守保平(三)

福岡縣に於ける縣營碎石事業(二)……………福岡縣土木課長 坂本一平(七)

漫録

道路に關することを……………池本泰兒(八)

法令

道路損傷金徵收規則……………田中好(九)

地方通信

東北方面……………(一〇)

東海方面……………北陸方面……………近畿方面……………中國方面……………九州方面……………

彙報

地方長官會議に於ける路政問題……………(一一)

岩澤幹事歸朝……………理事會の開催……………通常會員の増加……………

叙任辭令……………(一二)

編輯室の内外……………(一三)

アスファルトの御用なら

舶來品でも國産品でも

淺野物産へ

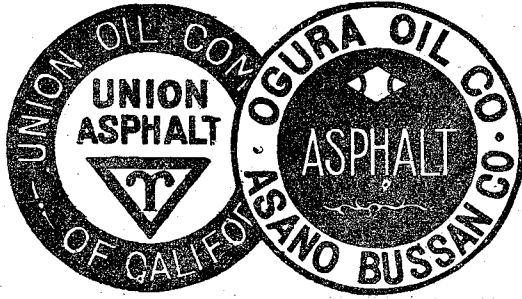
途	用
塗	鋪
料	装
用	用
用	用
徴	特
膠	品
着	質
力	均
強	等
大	
	規
	格
	正
	確
	純
	瀝
	青
	分
	延
	度
	最
	大

米國ユニオンオイル會社製アスファルト日本總代理店  
小倉石油會社精製バキウム蒸溜高級國産アスファルト一手賣捌元

日本一のアス  
ファルト問屋

淺野物産株式會社

アスファルト部



混凝土の理想的目地材料

專賣特許

カレー エラストイト

エツキスパンション

ジヨイント

東京 丸ノ内海上ビル六階

電話丸ノ内自至二二五八八番

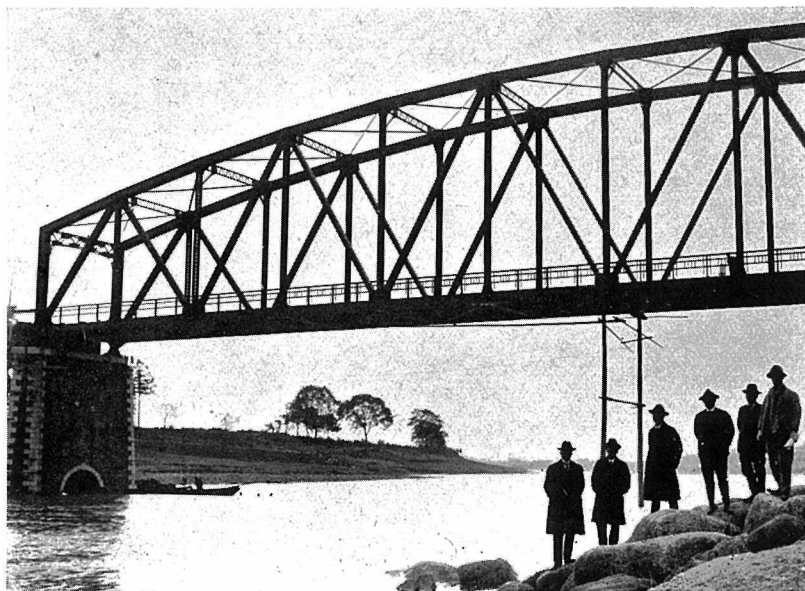
大阪 東區瓦町山口ビル八階

電話本局自至五九九一八番

福岡縣筑後川上流の昭和橋(正面)



同橋側面(橋下ヨリ撮影)



(寫眞説明) 府縣道千束杷木線 福岡縣浮羽郡大石村と朝倉郡杷木村とに跨り筑後川に架設、橋型ワレン型鋼樑桁橋及鐵筋混凝土桁橋、全長一三五米七五(鋼樑桁橋の部七三米七五、徑間鐵筋混凝土桁橋の部一五米五〇、四徑間橋員五米五〇、橋床鐵筋混凝土版鋪裝グラノリシツク高欄鋼鐵及鐵筋混凝土橋臺、海凝土、六圓六八)鐵筋混凝土、工費一〇五、三六二圓二六(鋼樑桁橋の部七五、一三〇圓五八、鐵筋混凝土桁橋の部三〇、二五砂利八七四〇立米、砂三九九〇立米、煉瓦二六、二〇〇枚、職工人夫一三、二〇五〇人)

# 高等 土木工學 牧彥七博士監修

土木界空前の  
大出版豫告!

◎土木事業は國民經濟生活と極めて緊密の關係あるに不拘其の基礎要件たる土木工學の普及進展未だ遅々たるの現狀に鑑み、吾人同志相謀り工學博士牧彥七先生監修の下に廣く土木工學全般に亘り、斯界の重鎮たる東西兩大學の學者、内務鐵道兩省及び其の他官公廳に於ける實務家に分擔執筆を煩し、茲に本書を刊行する。

◎本書は全十八卷にして各科一卷完結、一卷菊版四百頁内外毎月一卷づつ刊行する。(發行の順は卷順に依らず)

◎本書は他の全集類と異り、各著者が特に本書のために新に執筆せられしものにして其の講述に當りては、學理及び實際に亘り精緻を極め特に實際の仕事に際して直ちに應用し得る様意を注ぎたるものなれば、斯界人士の必ず座右に備ふべき無二の良書たるを確信する。

◎斯界に普く頒布するため専門書籍中價格の低廉其の比なきを期し、尙諸般の準備殆んど成りたれば近く詳細公表の豫定なり、乞ふ其の日を待たれんことを。

|| 第一回配本豫定 ||

第九卷  
橋梁工學 内務技師 三浦七郎

東京市小石川區諏訪町五五

發行所 常磐書房



# 高等土木工學

## 執筆者及擔任科目

◎第一卷	應用地質學 ……(交 涉 中)
◎第二卷	應用地震學 ……內務技師 工學博士 東大教授 山口 昇
◎第三卷	應用力學 ……京大教授 高橋逸夫
◎第四卷	應用水理學 ……內務技師 村野爲次
◎第五卷	測量學 ……東大教授 關 信雄
◎第六卷	土木工程材料 ……內務技師 藤井眞透
◎第七卷	基礎工及土木施工法 (見積及仕様を含む) ……內務技師 谷口三郎
◎第八卷	鐵筋混凝土工學 ……熊本高工 教授 吉田彌七
◎第九卷	隧道工學 ……京大教授 瀧山 與
◎第十卷	土木器具機械 ……攻玉舍高工 講 師 志水直彦
◎第十一卷	道路工學 ……復興事務局 技 師 牧野雅樂之丞
◎第十二卷	橋梁工學 ……內務技師 三浦七郎
◎第十三卷	鐵道工學 ……鐵道技師 平井喜久松
◎第十四卷	軌道工學 ……鐵道技師 岡田信次
◎第十五卷	高速鐵道工學 ……大阪府高速 鐵道部長 清水 瀨
◎第十六卷	上水工學 ……內務技師 河口協介
◎第十七卷	下水工學 ……工學博士 茂庭忠次郎
◎第十八卷	河川工學 ……內務技師 福田次吉
◎第十九卷	港灣工學 ……工學博士 鈴木雅次
◎第二十卷	水力工學 ……內務技師 萩原俊一
◎第二十一卷	電氣工學大意 ……鐵道技師 森田重彦
◎第二十二卷	溪流及砂防工學 ……鐵道技師 林 誠一
◎第二十三卷	都市計畫 ……大阪府都市 計畫課長 赤木正雄
◎第二十四卷	建築學大意 ……大藏技師 內山新之助
◎第二十五卷	土木行政 ……土木事務官 伊部貞吉
◎第二十六卷	交通運輸 ……工學博士 田中 好
◎第二十七卷	……
◎第二十八卷	……

# 經濟國難の打開は

國産品の愛用と

消費經濟の節約に在り

我國の鋪裝に

ビチュマルス時代出現す

## ビチュマルスは純國産品

横濱工場  
日産五百石

ビチュマルス

鋪裝費—加熱アスファルト鋪裝の約三分の一  
維持費—加熱アスファルト鋪裝の約四分の一

何物か貨物の運賃を遞減し

國民の疲弊が救濟し得るか

↓道路の改修と鋪裝↑

## ビチュマルス鋪裝八萬坪突破

(關東一圓五月現在)

東京府道路 七千二百十三坪

東京市道路 一萬九千二百七十二坪

校庭 五千五百九十五坪

神奈川縣道路 一萬二千四百三十六坪

横濱市道路 四千九百八十七坪

校庭 五千九百坪

埼玉縣道路 三千三百六十八坪

静岡縣道路 四千六百〇九坪

千葉縣道路 五千九百九十五坪

北海道道路 三千五百五十坪

山形二、二〇〇坪 群馬二、〇三八坪 富山七〇〇坪 愛知一、八五〇坪

〇坪 航空隊一、八九五坪 プラットホーム二、二八三坪 其他一、五五〇坪

日本液体アスファルト工業株式會社

關東總代理店

## 日本ビチュマルス鋪裝工業株式會社

東京丸ノ内伸通三菱五號館

電話丸ノ内(23)四八二九番

工事説明  
書送呈

世界ヲ風靡シツ、アル  
理想的アスファルト乳劑

# ビチエマルス鋪裝

工業株式會社

日本液体アスファルト工業株式會社

ビチウマルス工業株式會社

關西總代理店

大阪市西區立賣堀南通二丁目十八番地  
電話 新町 特長 四三一五番  
出 張 所  
福岡市博多下西町六番地  
電話 三三七九番

型錄贈呈

昭和五年

道路の改良

六月一日

第二十卷  
第六號



## 言 頭 卷

専制政治に對立して創造された政治組織が立憲政治であることは言ふ迄もないが、併し政治の實際が餘り國民生活と懸け離れるやうに爲ればなる程、兩者制度の利弊に疑を挿しはさむ、吾々は從來兩者の政治を疑惑裡に見てゐた、然るに今回の特別議會の效果を見て矢張り立憲政治が専制の夫れに勝つてゐることを體驗した、と言ふのは、濱口内閣が議會が協賛した豫算を其の實行に方つて變更し、無理な緊縮政策を採つたが爲に、不景氣を招來したことを非難し、現内閣をして多少なりとも反省せしめた效果を認め得たからである、故に吾々は此特別議會が喧噪以外に何の效果も納め得なかつたと言ふ批評に對しては賛成するに躊躇する。

金解禁の善後措置を誤つたか否かと言ふやうな水懸論や、國民の實生活に縁の遠い統帥權問題やらは別としても、緊縮政策之れ施政の最善と考へてゐた現内閣をして、緊縮は主義では無く政策であり、政策は時運と共に變遷すると言はしめ、失業者救済の爲には公債政策に依る新規企業も亦已むを得ないと言はしむるに至つたのは、從來の政策が世情に適合しなかつたことを自白せしめたのであつて、之は特別議會の效果と言はざるを得ない、國民の協賛した産業道路事業でも執行してゐたならば、都市に於ける失業者を救済し、又夫れ等の者を地方に誘致せしめたに違ひない、今遅滞ながら夫れを言明するに至つたのも矢張り議會の效果である、更に現内閣が捉はれた從來の政策を改訂し、高價な内地品の使用を奨勵して輸入を抑制すると言ふやうな姑息退嬰的な考察を捨て、低廉なもの外國品と雖之を使用せしむる代りに、我が低廉製品を國外に提供するの方針を採るに至つたならば、産業は當然に發達して經濟國難を緩和するであらう、吾々は夫れを切望する。